

人間福祉学部

社会福祉学科 [社会福祉専攻]
社会福祉学科 [介護福祉専攻]
心理福祉学科

子ども未来学部

子ども未来学科

人間科学部

心理学科

大学院

人間学研究科 [子ども人間学専攻]
人間学研究科 [心理学専攻]



Special Interview

生田 久美子

田園調布学園大学 学長

黒岩 祐治

神奈川県知事

四年制大学設立二十周年



「ともに生きる社会」に貢献するために

SPECIAL INTERVIEW

スペシャル対談

地域社会を支える
卓越した実践者を
育成します。

田園調布学園大学 学長
生田 久美子

Profile
調布高等学校(現・田園調布学園高等部)・慶應義塾大学・慶應義塾大学大学院を修了後、東北大学大学院教育学研究科にて教鞭をとる。2011年より田園調布学園大学に赴任し、2013年同学の副学長に就任、田園調布学園大学大学院の開学準備に従事する。2017年、田園調布学園大学学長に就任。

福祉の現場は
いのちに向き合う仕事。
その思いを忘れずに。

神奈川県知事
黒岩 祐治

Profile
灘高等学校・早稲田大学を卒業後、フジテレビジョンに入社。報道記者、番組ディレクター、報道番組のキャスターなどとして活躍した後、2009年から国際医療福祉大学大学院教授を務める。2011年神奈川県知事に就任。「いのち輝くマグネット神奈川」を掲げて諸施策に邁進し三選。2019年から三期目(19代知事)。

卒業生の多くが地元で活躍。
神奈川県で育て、神奈川県に返す

黒岩 私は就任以来、「いのち輝く神奈川」を創ろうと努めてまいりました。そうしたなか2016年に相模原市の津久井やまゆり園で19名もの尊い命が奪われるという、大変痛ましく衝撃的な事件が発生しました。二度とこのような悲劇が繰り返されないよう、ともに生きる社会を実現しなければならない。県議会と共同で「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定し、この理念を広く深く浸透させるための普及活動に全力で取り組んでいます。

生田 「憲章」が謳う共生社会の実現は、まさに本学の教育理念および教育方針と重なるものです。本学は自我を捨てて精進する、「捨我精進」を建学の精神に掲げています。これは自分の力を誰かのために捧げる姿勢です。特に共生社会に深く関わる福祉、保育、心理領域については、この20年間、建学の理念のもと社会に貢献する専門職を育成、輩出してきました。川崎市にある

本学は学生の8割以上が神奈川県出身で、多くの卒業生が地元で活躍しています。地域で育て地域に返すことも含め「ともに生きる社会」の実現に微力ながら貢献させていただいていると自負しています。

黒岩 心強い限りです。福祉に関しては超高齢社会が加速するなか、県でも2025年には約2万1千人の介護職員が不足すると見込まれています。また私たちは介護職の数の確保に努める一方で、高齢者支援のあり方を重視し「未病コンセプト」に基づく取り組みを推進しています。食や運動、社会参加を通して可能な限り病気にならない、いのちを全うするまで元気に自立して過ごせる方をたくさん増やすのが大きな目標です。そのために介護職には何よりも「高齢者とともに生きる社会を実現しよう」という思いをしっかりと持ったうえで、知識や技術を発揮できる人材に期待しています。

生田 仰る通り、介護福祉士の資質というのは知識や技術に優れるだけではなく、その土台となるマインドや知性が重要です。本学の介護福祉専攻では高齢者との共生をめざして多彩な教育を行っています。人間福祉学部全体で申し上げると、障害のある方を支える社会福祉士や、精神保健福祉士などを合わせ、これまで約1,700名の人材を輩出してきました。あらゆる領域で知性と心性、技に優れる「卓越した実践者」を育てる意

識で取り組んでいます。

県内にキッズタウンが拡大
有意義な取り組みが「面」に広がる

黒岩 子どもたちをしっかりと育て、ともに生きる点では保育士も重要な存在です。保育士もまた人材確保が難しいなか、県では独自で人材を補うために2015年度から全国に先駆けて「地域限定保育士試験」を実施しています。

生田 本学は子ども未来学科で保育士、幼稚園教諭を育成し、約600名の卒業生を送り出しています。福祉の世界は時代の影響を受けやすく、保育領域では近年、保育所等に外国人のお子さんも増えていることから、今後は外国の言葉や文化をはじめ従来の保育とは異なる形に対応できる、新しい時代の保育士養成をめざしています。また子どもたちの社会性や主体性を育む活動として、2005年から「ミニたまゆり」というイベントを開催しています。

黒岩 私も9年ほど前に見学させていただき、子どもたちが職業体験やまちづくり体験にいきいきと取り組む姿や、大学と地域の方々が一緒になって「こどものまち」を手作りしている様子にとても感銘を受けました。

生田 キッズタウンの原型ですね。2018年には県の大学発・政策提案制度*に、「ミニた

まゆり」の発展形として「かながわ子ども合衆国」を提案して採択いただきました。ご支援のおかげもあり当初10か所だったキッズタウンが今では22か所に拡大しております。

黒岩 有意義な取り組みがひとつの大学や地域という「点」で終わらず、スケールアップして「面」に広がっているのは素晴らしいことで県知事としても嬉しい限りです。なぜなら私たちはもちろん県政に全力を尽くしますが、県民の皆さん一人ひとりが「私たちはこうしたい」という思いや意志を持って自らアクションを起こすことも非常に大事だと考えているからです。また学生の皆さんにとっては、学生時代にこうした体験ができることは大きな財産です。特に福祉や医療の現場は、「いのちに向き合う仕事」という思いを共有しながら、さまざまな専門職といかに連携、交流を図るかが大事です。専門分野を究めつつも視野狭窄に陥ることなく、「いのち」というキーワードを常に念頭において勉強に励み、卒業後もその思いを忘れずに活躍してほしいですね。

生田 本学でも資格取得や技術、知識の習得がゴールではなく、それらをいのちに向き合う仕事への姿勢につなげる教育が大切だと考えています。知事のお話を聞いて、ともに生きる社会に貢献できる点でも、本学が養成する専門職はとても価値のある職種だとあらためて認識しました。

*2020年度から大学発・事業提案制度に名称変更

共生社会の実現のために 多様性を尊重する姿勢を学び続ける

MOCHIZUKI TAKAYUKI



望月 隆之 講師

研究分野：障害者福祉、ソーシャルワーク
研究テーマ：知的障害者の意思決定支援

大学卒業後、神奈川県内のグループホームに9年間勤務。東洋大学大学院修士課程修了後、相模原市内の施設職員、本学助教を経て2017年から現職。当事者団体「にじいろでGO!」事務局担当。

KIMURA SENRI



木村 仙理 さん

人間福祉学部社会福祉学科
介護福祉専攻 2015年卒業
(東京都・私立関東国際高等学校出身)

社会福祉法人セイワ 川崎授産学園障害者支援施設(入所)・つばき寮で生活支援員として勤務。2021年、現場を通して感じた課題の解決力をつけるため、現職のまま武蔵野大学大学院に進学。現在修士課程1年。知的障害者の高齢化に関して研究している。

KUDO AKEMI



工藤 晃生 さん

子ども未来学部子ども未来学科
2021年卒業
(神奈川県・私立聖ヨゼフ学園高等学校出身)

学校法人聖マリア学園 さゆり幼稚園に非常勤職員として勤務。預かり保育を中心に年少から年長の子どもたちを担当。入職とほぼ同時に武蔵野大学通信教育学部の4年次に編入して心理学を学ぶ。大学の卒業論文は海外にルーツを持つ児童の保育がテーマ。

CROSS TALK



「ともに生きる社会」の前提は お互いを知り尊重すること

望月 世間を大きく揺るがした「津久井やまゆり園事件」は、私が田園調布学園大学の助教として着任した最初の年に起こりました。相模原市の出身で、本学に来る前は相模原市の生活介護事業所で働いていた私には大変な衝撃で、しばらく立ち直れないほどでした。次に思ったのはソーシャルワーカーとして自分に何ができるのか。なかなか答えが見つからず悩みましたが、やがてさまざまな縁や出会いをきっかけに、障害のある当事者の方と保護者、支援者が語りあうワークショップを開くことができました。そこでわかったのが、当事者たちが感情や意思を表明する場が今までなかったということです。「ともに生きる社会」の実現の大前提は、「お互いを知る」ことです。

木村 同感です。とかく「支える」というと支援者主導になりがちなところを、本人たちが主役で活動されているのが素晴らしい

いです。事件を受けて私が働く学園でも入所施設のあり方を見直し、話し合いや研修を通して職員の意識啓発を図るとともに、ボランティアを受け入れたらサロンを開いたり、地域のコミュニティの場として開放しようとしています。お互いに触れあう機会をつくるのが大切です。

工藤 私が勤める幼稚園でも軽度の知的障害やグレーゾーンの子どもたちがいます。また多様性という点では、保護者のどちらかが外国籍のお子さんも増えていて、保護者間や子ども同士、また保護者と園側のコミュニケーションが難しいことが課題です。外国人の保護者の方にはクラス担任との架け橋になる、相性のいい保護者の皆さんを紹介するなどのアプローチを心がけています。一方、発語が少ない子どもには特に「代弁」が大切です。「こう思ったんだよね」「こう言いたかったんだよね」と言葉にしてあげることで本人が安心するのももちろん、他の子どもたちにも気持ちが共有されて仲間意識が生まれます。特に今は共働き家庭が多く、幼稚園も保育園と同様に長い時間を過ごす「生

活の場」になっていますので、どの子も伸び伸びと楽しく暮らせるよう、気持ちを共有する・理解することがとても大切です。

木村 代弁というのは、意思決定の支援でありアドボカシー(権利擁護)にも繋がる行為ですからね。生活の場は何を飲むか何を着るか、小さな選択の繰り返しですから、より正確なアセスメント(評価)に向けて利用者さんの日々の様子を細かく把握することを重視しています。

望月 そのためには経験の幅を広げていく支援も大事ですね。この人はコーラが好きだと思っていたら、飲み物はコーラしか知らなかったという例もあります。また先ほどお話しした「語りあう会」は、いま当事者団体「にじいろでGO!」として発展・継続していますが、ワークショップの参加者を初めて親睦会などにお連れすると、「活動の後にこんな楽しい席が待っているなんて!」と感激されるのです。そして今回のモチベーションが上がる。地域との交流をはじめさまざまな経験が豊かな自立支援に寄与しますし、私たちが彼らをよく知ること

で一人ひとりを尊重する共生社会のあり方が見えてくると思います。

学生時代の学びと出会いが 今の自分につながっている

望月 子どもの経験を広げる活動としては、本学の「ミニたまゆり」も画期的な取り組みです。子どもたち主体で社会の仕組みを体験的に学べる意義はもちろん、学生スタッフにとっても成長のチャンスです。

工藤 「ミニたまゆり」に限らず田園調布学園大学では実践的な授業が中心だったので興味を持って学べました。相談援助の授業では「横並びのほうが話しやすい」という〆会話の立ち位置、が強く印象に残り、いま保育の場で実践しています。また1年次の海外研修でニュージーランドに行き、ルールに縛られない自由な保育に触れたことも役立っています。本来、子どもたちは男女関係なく、男の子でもスカートを着きたがったり、女の子でも泥遊びや電車ごっこが好きだったり自由なんですね。「こうしなさい」と決め

つけることなく、自由に遊ばせるなかで子どもたちも学ぶことが多いようです。

木村 私の場合は大学時代に、障害者福祉に興味を抱いたことが今に繋がっています。介護福祉専攻でしたが、たまたま大学の先輩からボランティアに誘われ、先輩の勤める施設の利用者さんと一緒に旅行したのがとても楽しく、障害者福祉をめざすきっかけになりました。卒業後はデンマークの大学に留学して社会福祉を学びました。

望月 デンマークといえばノーモライゼーションの理念の発祥地ですね。障害のある人もない人も同じ地域社会で生きることを実現するという。

木村 はい。「人間とは」という部分から深く学べたのは大きな財産です。ただ、福祉の現場では新たな課題が次々出てきます。解決に向けて取り組む若手職員のサポートができるような存在になっていけるよう、自ら課題を発見・解決する意識を深めていきたいと思っています。

工藤 私も保育先進国のオーストラリアで学びたいと卒業後に留学を予定してしまし

たが、残念ながらコロナ禍で断念。

望月 時代が変化するなか、障害者福祉も保育も今の自分の知識と経験値では乗り越えるのが難しい課題が増えてきました。専門職として生涯勉強する意欲をお二人が持ち続けていることを嬉しく思います。

木村 社会人が勉強するとき、何から始めればいいのか迷いがちですが、田園調布学園大学は卒業後のフォローアップも手厚く心強いです。私は留学先も恩師の紹介で決めましたし、デンマークの学びの関係で今も母校と密に交流しています。今後は実践的な実習モデルを共同でつくるなど、現場と教育機関を繋ぐ力を養って貢献したいです。

工藤 先生方との距離が近いのも魅力ですね。在学中は学部のどの先生に質問に伺っても、「工藤さんね」と私のことをご存知でした。学問的にも人格的にも素晴らしい先生方ばかりで、あたたかく見守られている安心感は計りしれません。

望月 「ともに生きる社会」の実現に貢献する大学ですからね。在学生、卒業生問わず常に皆さんの歩みを全力でバックアップします。

田園調布学園大学の社会貢献・研究活動紹介

「子どもから高齢者までのすべてのライフステージ」を視野に入れた「質」の高い優れた実践家を養成している田園調布学園大学では、福祉・保育・心理の分野において社会貢献活動・研究活動が活発に行われています。「ともに生きる社会」の実現に向けて、さまざまな課題に取り組んでいます。



共生社会を支える ソーシャルワーク専門職と人間教育

隅河内 司 教授

人間福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻
(公益社団法人 神奈川県社会福祉士会 会長)

私の実践フィールドである神奈川県社会福祉士会は、公益社団法人として福祉、医療、教育、司法、行政の分野で、地域づくりや相談支援、権利擁護活動、啓発イベント等の社会活動を行っています。このように、様々な人の困難に寄り添い、環境調整を図りながら誰も排除しない社会をめざすソーシャルワーク実践には、確固たる人権意識と豊かな感性、地域・社会との連帯意識を持つ人材が不可欠です。本学では、20年にわたり豊かな人間教育を展開し、多くの社会福祉士を輩出してまいりました。今後も、共生社会を支える人材づくりに貢献していきます。



子どもが運営する仮想の国、 かながわ子ども合衆国

番匠 一雅 教授

子ども未来学部 子ども未来学科

田園調布学園大学では、2005年から子どもたちの力で仮想の町を運営し、子どもたちが楽しみながら、職業感・社会性・主体性を学ぶことができる活動「子どもが作る町ミニたまゆり」を実施しています。本活動を、神奈川県内に普及させることを目的とした提案「かながわ子ども合衆国」が、神奈川県大学発・政策提案制度に採択され平成29・30年度の神奈川県の政策として実施されました。2018年8月には、神奈川県庁にて、かながわ子ども合衆国サミットが開催され、黒岩知事にも参加していただきました。



地域の高齢者の元気をサポート 「こころとからだの活き活き講座」

浦尾 和江 教授

人間福祉学部 社会福祉学科 介護福祉専攻

高齢社会にあって、1日でも元気に住み慣れた地域で生活し続けるためには、日頃からの注意と、健康寿命の延伸への知識の習得とトレーニングが求められます。また、1人の力では気づきも少なく、継続も困難となることも多い中で、大学を会場として講座を開き、地域の方や卒業生、在校生にも広く参加を呼びかけ2016年度から社会人学生同好会で「こころとからだの活き活き講座」を月1回実施し、これまで延べ1,000名の方が参加しています。2020年1月は、地域の高齢者と介護を学ぶ学生がアクティビティ・ミュージックを通じて交流しました。

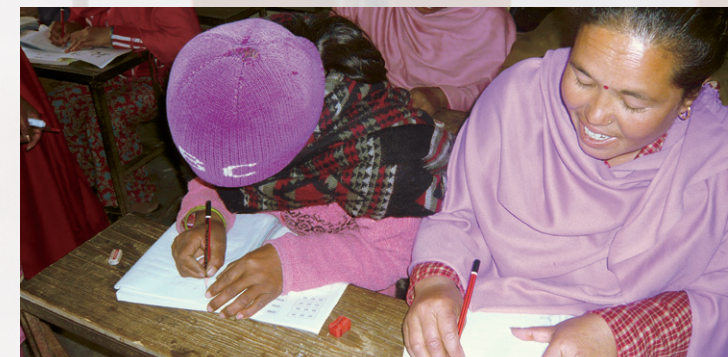


社会参加と学び直しを 奨励する社会の創造へ

長岡 智寿子 准教授

人間科学部 心理学科

ネパールをフィールドに女性が社会参加を目指すことの意義やその在り方を模索する研究活動に取り組んできました。近年では農村女性のための識字教室や現地ラジオ放送局と共同でラジオ講座を企画、実施し、ノンフォーマルな学習活動の幅広い可能性を知ることとなりました。翻って日本社会を見つめれば、義務教育未修了者が12万人にも上ることが報告されています。共生社会の実現に向けて、多様な観点から「学び」の機会の重要性を問いかけ、豊かな地域づくりへと展開していくことが必要であると考えています。



大学紹介

「捨我精進」を建学の精神に掲げる本学園の教育は、知識の修得だけではなく、心身の調和と鍛錬を目指した学生の活動を重視してきました。柔軟で寛容な心を持ちつつ、物ごとに真剣に取り組んでゆく、そういう学生・生徒を養成し、社会に貢献できる人材を本学園から送り出しています。

沿革

1926年

東京・田園調布に調布女学校(現・田園調布学園 中等部・高等部)、調布幼稚園設立

1967年

神奈川県川崎市の現在地に調布学園女子短期大学を設立、英語科開設

1990年

日本語日本文学科開設

1994年

川崎市より福祉学科開設の要請

1998年

人間福祉学科開設、男女共学とし校名を調布学園短期大学に変更

1999年

英語英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更、全学男女共学となる

2002年

田園調布学園大学開学、人間福祉学部開設
調布学園短期大学を田園調布学園大学短期大学部に名称変更

英語コミュニケーション学科、日本語日本文学科を改組し、人間文化学科開設

2006年

人間福祉部に子ども家庭福祉学科開設

2007年

田園調布学園大学短期大学部廃止

2010年

人間福祉学科を社会福祉学科に名称変更、心理福祉学科を新設

子ども家庭福祉学科を子ども未来学部子ども未来学科に改組

田園調布学園大学みらいこども園開設

2015年

大学院人間学研究科子ども人間学専攻開設

2019年

人間科学部心理学科開設

大学院人間学研究科心理学専攻開設